

# ブラキムラとめぐる！ 仙台城下町ボヤージュ 【2026年5月12日放送分 新弓ノ町／八軒小路】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩き達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 今回の歴史散歩は、広瀬川にかかる宮沢橋の東詰からスタート。広瀬川から取水した六郷堀の暗渠の上を、昭和市電通りを越えて東へ歩きます。六郷堀と、すぐ北側の七郷堀は、政宗公晩年の若林城(現在の宮城刑務所の敷地)築城に際して開削されたと考えられます。若林城の濠は、六郷堀の水を引いていました。
- 昭和市電通りの東側は、若林区の新弓ノ町。南材木町小学校をコの字型に取り囲む街区で、元々舟丁付近にいた御弓衆がこちらに移されたようです。
- 八幡神社の小さなお社を越えて交差点を左折(北上)すると、八軒中学校の正門前に今月の辻標があります。コーナー67本目となる辻標には「新弓ノ町／八軒小路」と刻まれています。八軒小路は若林城下でも東の端にあたる通りで、今でこそ住宅街となっていますが、藩政時代は家が八軒しかないという寂しい場所でした。通りの名も、そうしたところから付いたと考えられます。

- 放送では、JRの線路を東に越えた若林区文化町も紹介しました。  
ここは仙台で初めて、民間による宅地造成が行なわれたとされる街。  
大正12年(1923)の関東大震災をうけて仙台に疎開し、永住を希望した被災者のために整備されました。  
お堀沿いのサクラの老木が、街の歴史を物語っています。

〈文・佐々木淳吾〉

